

熊谷スマートシティ

コミュニティラボ キックオフイベント

～デジタルと人の力で、「産業・イノベーション」と「市民共創・市民協働」～



KUMAGAYA
SMARTCITY

コンセプトビジュアルの発表

コミュニティラボへの期待

一般社団法人けやき共創パートナーズ

代表理事 栗原 志功

理事 原田 勲



KUMAGAYA
SMARTCITY

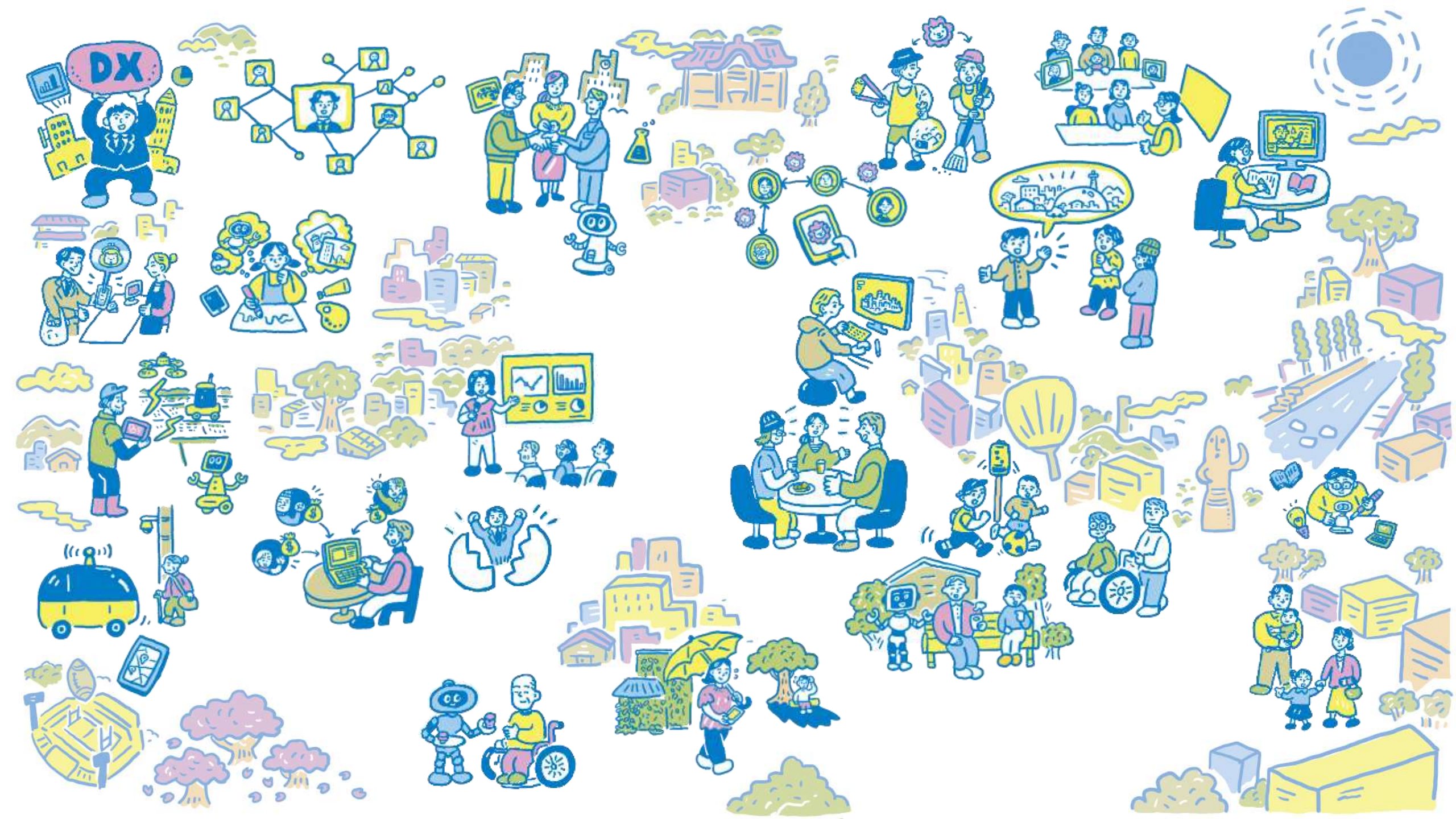
「コンセプトビジュアル」の 発表

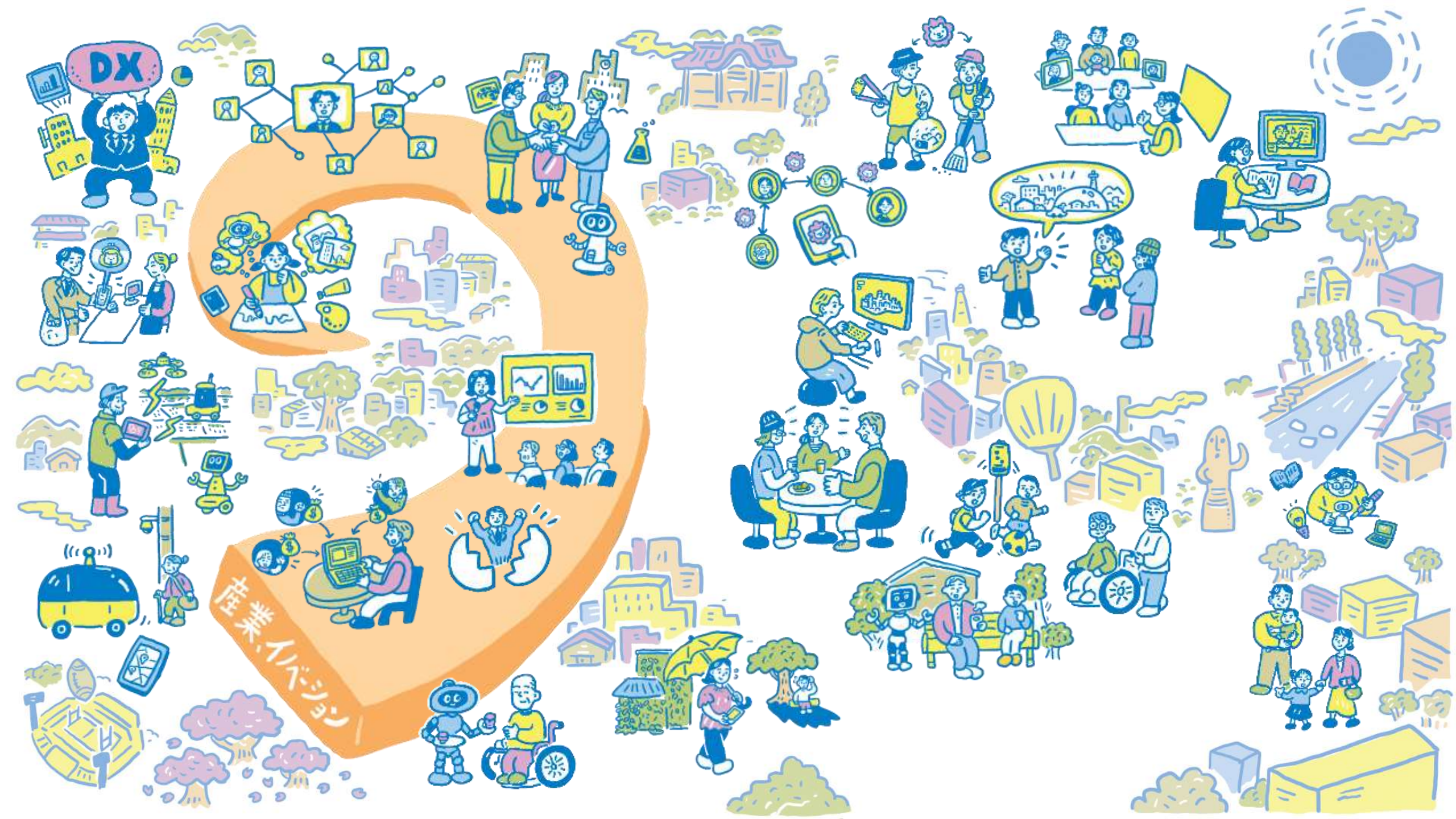


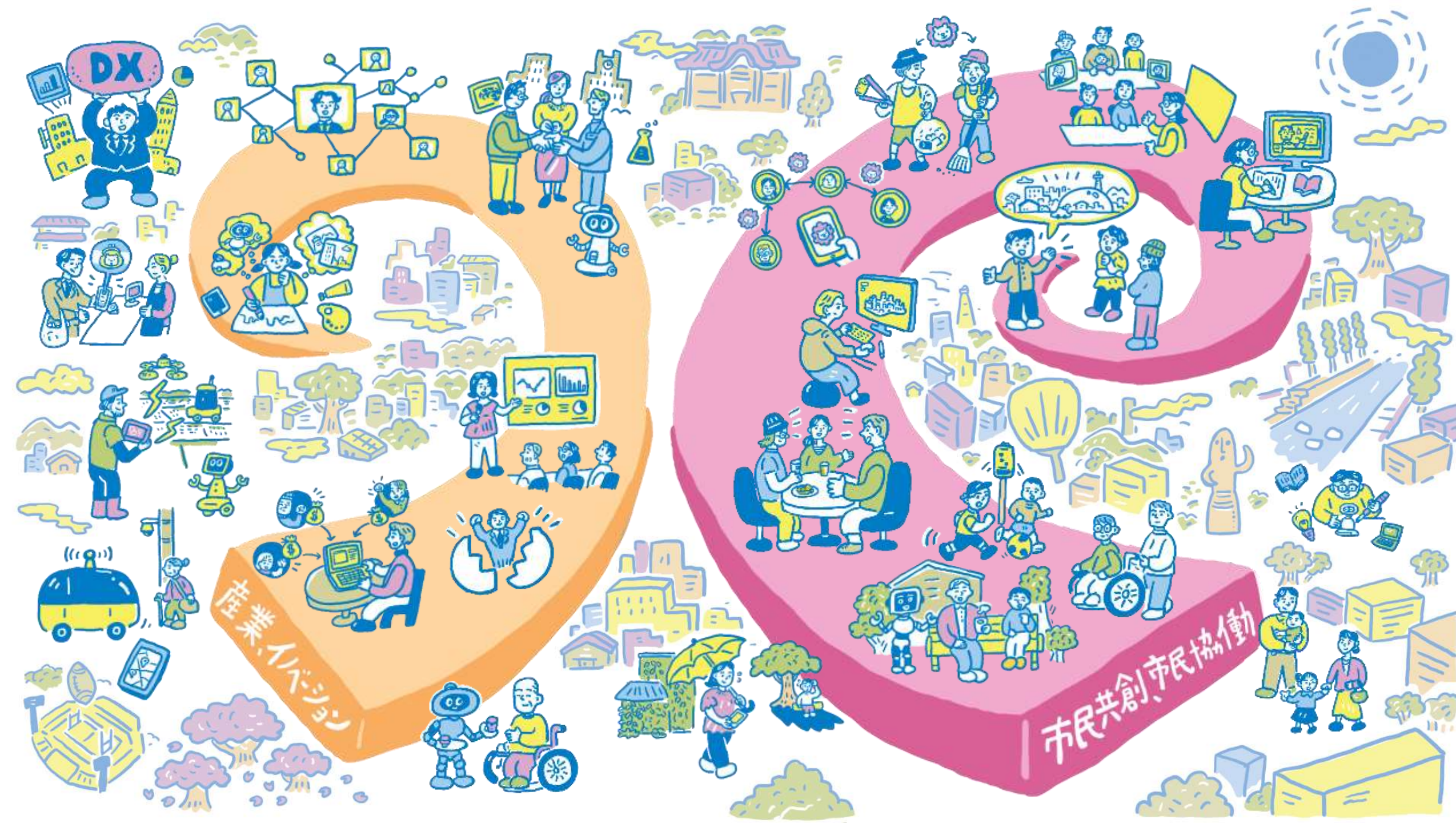
Think globally, Act locally !

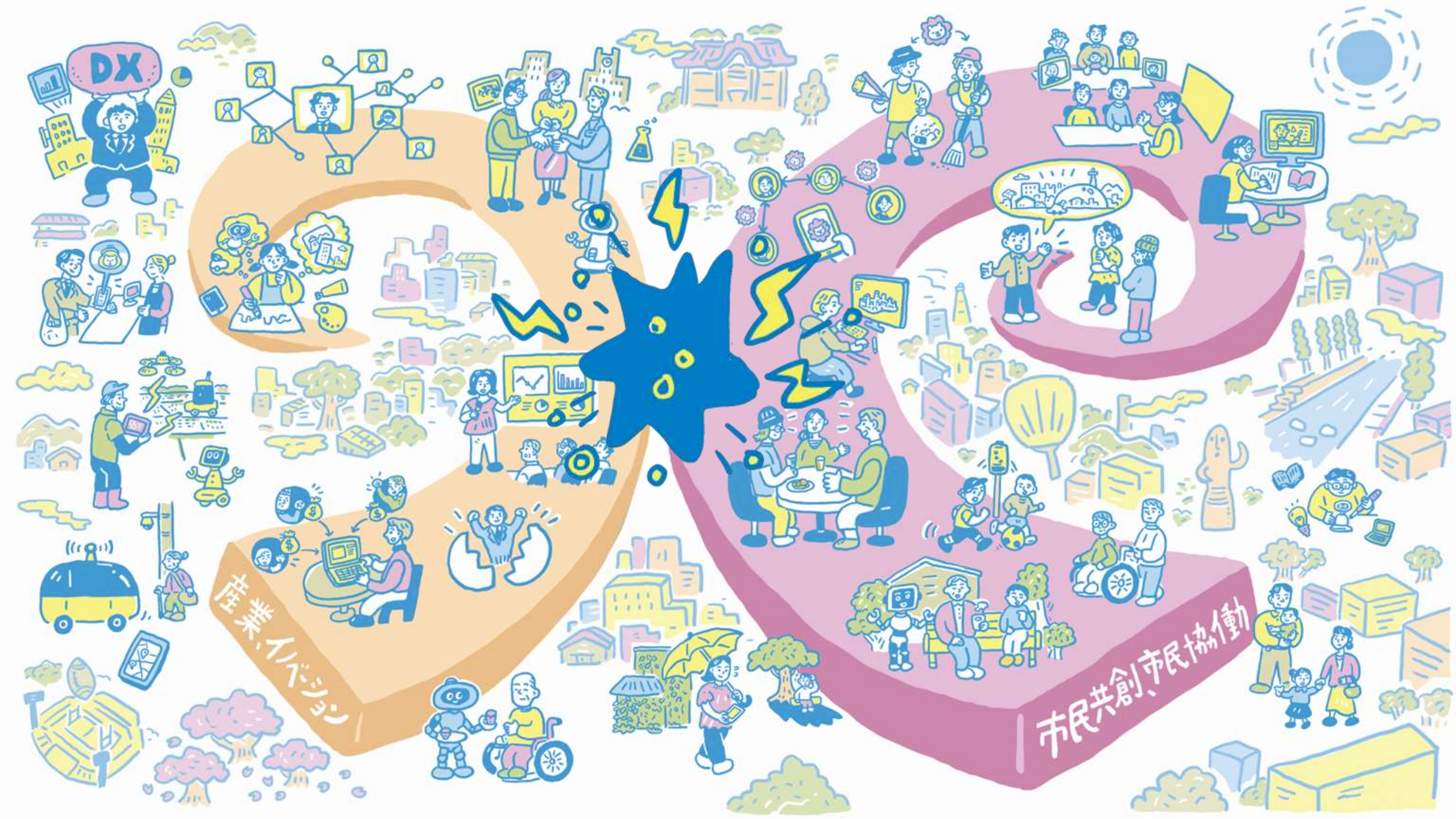
地球規模で考え、
熊谷市（地域）で行動せよ！











「コミュニティラボとは」



やさしい未来発見都市の成長サイクル



熊谷スマートシティとしてのキーワード

『やさしい未来発見都市』 『デジタルと人の力で、社会を前に進めていく』





市民協働・居場所

コミュニティ

+



創造の場・実験室

ラボ



地域社会の市民が集まり、学び、対話することによって、
つながりを生む出会いの場が “コミュニティラボ” です。

コミュニティラボとは

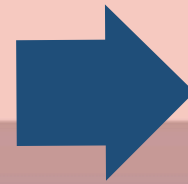
- Web上に置く「クラウドラボ」と、まちなかに置く「リアルラボ」を予定しています。
(リアルラボは当面不定期です。)

リアルラボ

クラウドラボ

いつでもどこでもだれとでも
つながる

人のつながり（コミュニティ）を活かした、誰もが夢を実現できるまちに向かうための実験室（ラボ）として名づけました。



公民連携による
デジタル技術と人の力
⇒新しい暮らし・産業

どんな場所になるのか

ラボは、関係団体・市役所が期待する役割を果たすために、以下の2つの機能を重視した場所として設定される。

共に創る場

- 市民共創型PF（3 DGIS（公表済み）、まちづくり合意形成（R6年度実装）等）と共に、熊谷市の理念・目的の実現に向かう支えとしてのラボ。

共に考える場

- デジタルを導入することで、市民が自ら楽しみ、発信することのできる場を生み、人口ビジョン・総合戦略にも貢献するラボ。



コミュニティラボに期待すること

「どこに行っても同じような人」問題

〇〇会議

やー、どーも



△△研究会

昨日はどーも



××クラブ

暑いんねえ



イノベーションは

多様な人々が集まってこそ、

生まれる。



熊谷 スパーク





誰かにお任せ



私が創る！

傍観者



やってみたい！

やらされてる感



ワクワク！

つまらない



生きがい！

孤独感



一緒にやろう！



情報発信

地域の新産業
創出

アイデア・要望

プロトタイプ

市民活動

企業活動

多様な意見

新たなプレー
ヤーが参画

フィードバック

実験・調査



スパーク

熊谷人よ、発火せよ！

ナイストライを讃えよ！

5 年後に向けた熊谷SCの人材育成等のスコープ

コミュニティラボから市民・地元企業による自主的な取り組みが生まれるスマートシティを目指す。



産業、イノベーション



「スマートクールシティ」対応策①（ワークショップの参加による体験価値提供）
一般の市民の方でも、スマート「クール」シティに関わるという原体験を得ることで「自分でクールな取り組みを発案できる、自分で分析ができる、自分でできる」ということを実感してもらう。

市民作成データの活用（コモンデータ）
市民参画型WebGISプラットフォーム

クマポの活用・暑さ対策スマートパッケージ・リンクルー

グッドデザイン賞の応募

「スマートクールシティ」対応策②（2次体験提供）
上記の活動をTV等のマスメディアやSNS等のデジタルメディアから取り上げられることで、多くの市民（参加していない人）が参加できることを認知し、主体的に関わっていくマインドセットが変わっていく。



5 年後（例）



熊谷が育てるべきは、「国内の先進的な企業・技術と海外の企業・技術を結びつけ、地球市場に向けた作戦を企めるハブ人材」。
地域の条件（気候、新幹線、大学等）を活かして「そのフィールドとして魅力あるスマートシティ」であることを目指す。

5 年後（ビジョンあり）



熊谷が守るべきは、「安心して暮らせるコミュニティ」。その持続性を確保するためにデジタル手法を導入し、「多くの市民や来訪者に共感してもらえるスマートシティ」を目指す。

市民参画、市民協働

(仮) 「コミュニティラボ」の展示コンテンツ例

シーンスケッチコンテスト



(7～9月)
(11～2月)

シーンス
ケッチコン
テスト動画

ロボットプログラミングコンテスト



(8～2月)

ロボット
ゲームデモ
動画

スマートクール シティ (6～9月)

(R6年9月以降)



暑さ対策ス
マートパッ
ケージ動画

AIカメラによる新しい観戦 体験と記録分析

(2～6月)



スポーツ分
析・観戦
デモ動画

コミュニティラボの事業内容チラシ

「自分らしく暮らせる」 (A3判・表)

自分らしく暮らせる「コミュニティラボ」

～やさしい未来発見都市を全ての市民へ～

知るを楽しもう
 ↳チャンネル「運営に関するお知らせ」

つながろう

創り出そう
 ↳チャンネル「まちなかビジョン編集部」

リアルラボ

まちなかの複数の場所を体験の場「リアルラボ」として不定期オープン・公開コンテンツ（Web講座の視聴等）を提供。

・R7年1月～ 星川エリアをモデルにまちづくり意見交換システムの実証を開始予定。

準備中

クラウドラボ

ビジネスチャットを活用した交流の場から全てのチャンネルへ！

まちづくり参画

・R6年7月～ 市のビジョン等に基づく公民連携のタウンマネジメント活動に市が参加証明書を発行。




双方向コンテンツ提供

・公民館をつないだ学びあい企画を提供。

・R6年8月 小学生将棋入門をWeb開催。

(グループのWeb利用やコンテンツ視聴等にご利用ください)
熊谷市・モバイルルーターの無料貸出(公民館など)



クマポが巡る「やさしい未来」を探そう

「してほしいこと」と「やれること」がつながりやすくなるアイデアを発信

・R6年10月～ クマポ利用者向けのマッチングサイト「リンクル」を実装予定。





(※) 本資料のイラストの作成には、画像生成AIアプリ「Adobe Firefly」を使用しています。

コミュニティラボの事業内容チラシ

「夢を形にする」 (A3判・裏)

夢を形にする「コミュニティラボ」
～やさしい未来発見都市を全ての市民へ～

未来を形に

→チャンネル「ロボット・ドローン研究所」

空の道

快晴率日本一の熊谷の空に
新しい「空の道」を



ロボコンジウム



(参考) 小中学生のロボット
プログラミングコンテスト
(WRO JAPAN 群馬地区
予選大会公式サイト)



夢を描こう

→チャンネル「未来スケッチ
のアトリエ」

シーンスケッチ コンテスト



年代別に応募可能・SF部門あり・CG可

→チャンネル「スマートクール
シティへようこそ」

(デジタルデザイン企画) スマート クールシティ



データで示そう

→チャンネル「デジタル地図を
作ろう・使おう」



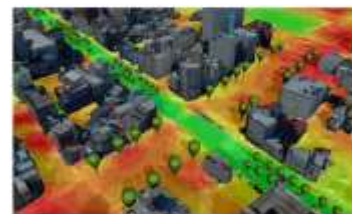
タブレットで 書き込み



小学生から利用可能
な「カキコマップ」
をスマートクールシ
ティWSで活用



Web(GIS)で共有

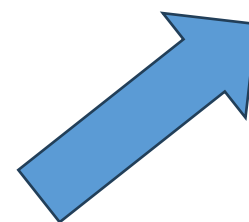
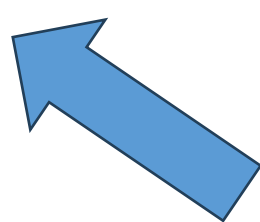


(参考) 市内一部高校の「総
合的な探究の時間」でも活用
(熊谷西高Webサイト)



(※) 本資料のイラストの作成には、画像生成AIアプリ「Adobe Firefly」を使用しています。

(仮) 「コミュニティラボ」から広がる熊谷市の未来像



コミュニティラボの概要

slidoによる感想共有

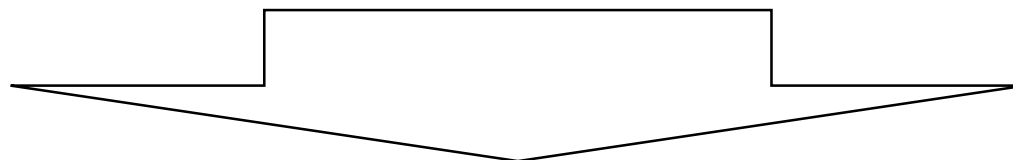
熊谷市市長公室政策調査課

コミュニティラボの概要

ラボは、関係団体・市役所が期待する役割を果たすために、以下の2つの機能を重視した場所として設定される。

○3 DGIS（公表済み）、まちづくり合意形成（R6年度実装）等の市民共創型PFと共に、熊谷市の理念・目的の実現に向かう支えとしてのラボ。

○デジタルを導入することで、市民が自ら楽しみ、発信することのできる場を生み、人口ビジョン・総合戦略にも貢献するラボ。



夢を形にするための場所

- 夢を形にしたい方をデジタルと仲間の力で応援するための入り口です。
- スケッチやデジタル地図の上に夢を表現し、応援してくれる仲間を募り、共にデザインし、生活の一部にしたり、具体のサービスや製品にすることができる。・・・そんな未来をデジタルと人の力で実現します。

自分らしく暮らせるための場所

- 熊谷スマートシティは、デジタル技術を活用して、
- ①効率的（スマート）に都市を運営すると共に、
- ②新たな人のつながりを生み出し、自己実現と支えあいを促進することで、幸福度（ウェルビーイング）の高い、持続的なまちを目指していきます。

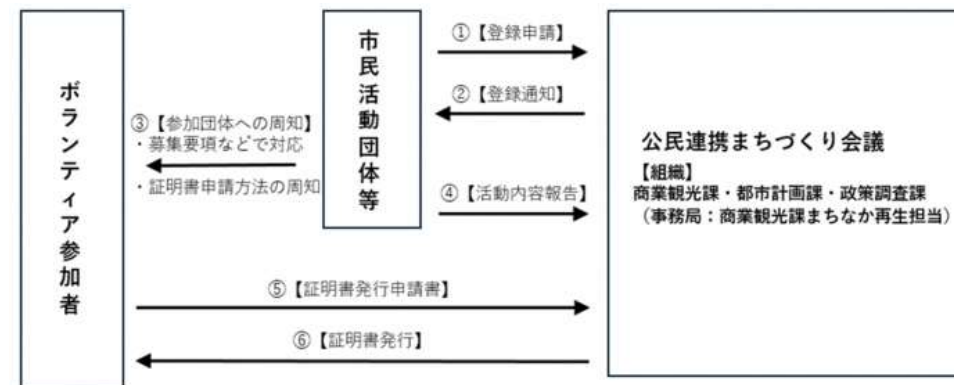
コミュニティラボの対象

- 特に年齢層は限定しない。（多世代交流型）
- ただし、子供世代（小中学生）や、デジタルネイティブ（主に高校生～20代）に向けては、可能性を引き出すことと、安全性の確保を特に意識。
- 「クラウドラボ」はSlackに設置。ハンドルネーム利用可。メールアドレスは非表示設定とする。

ラボ運営の座組み

- 地元企業・団体と市役所が協定を結び、運営のコアとなる。
- 今後、運営ボランティアを募集し、運営の協議等に関わっていただく予定。（高校生以上を想定。）

（参考）市が公募等により行うまちづくり活動にボランティアとして参加したかたを対象に、市が「タウンマネジメント活動証明書」を交付。（施行済み）



（Web掲載箇所）産業振興部＞商業観光課
＞まちなか再生担当からのお知らせ
＞「熊谷市タウンマネジメント活動証明書」の交付について

コミュニティラボへの参加の仕方

●クラウドラボ (slack)

- ・市ホームページまたは右記コードから参加
- ・利用マニュアルを参照し、お好みのチャンネルに参加してください。



●リアルラボ

- ・不定期開催
- ・開催の場合は、概要を市のホームページでお知らせします。

コミュニティラボの事業内容チラシ

「自分らしく暮らせる」 (A3判・表)

自分らしく暮らせる「コミュニティラボ」

～やさしい未来発見都市を全ての市民へ～




知るを楽しもう

→チャンネル「運営に関するお知らせ」

つながろう

創り出そう

→チャンネル「まちなかビジョン編集部」

リアルラボ

まちなかの複数の場所を体験の場「リアルラボ」として不定期オープン・公開コンテンツ（Web講座の視聴等）を提供。



・R7年1月～ 星川エリアをモデルにまちづくり意見交換システムの実証を開始予定。

準備中

クラウドラボ

ビジネスチャットを活用した交流の場から全てのチャンネルへ！




まちづくり参画



・R6年7月～ 市のビジョン等に基づく公民連携のタウンマネジメント活動に市が参加証明書を発行。



双方向コンテンツ提供

・公民館をつないだ学びあい企画を提供。

・R6年8月 小学生将棋入門をWeb開催。



(グループのWeb利用やコンテンツ視聴等にご利用ください)
熊谷市・モバイルルーターの無料貸出（公民館など）



→チャンネル「クマポの玉手箱」

クマポが巡る「やさしい未来」を探そう

「してほしいこと」と「やれること」がつながりやすくなるアイデアを発信





・R6年10月～ クマポ利用者向けのマッチングサイト「リンクル」を実装予定。

(※) 本資料のイラストの作成には、画像生成AIアプリ「Adobe Firefly」を使用しています。

コミュニティラボの事業内容チラシ

「夢を形にする」 (A3判・裏)

夢を形にする「コミュニティラボ」
～やさしい未来発見都市を全ての市民へ～

未来を形に

→チャンネル「ロボット・ドローン研究所」

空の道

快晴率日本一の熊谷の空に
新しい「空の道」を



ロボコンジウム



(参考) 小中学生のロボット
プログラミングコンテスト
(WRO JAPAN群馬地区
予選大会公式サイト)



夢を描こう

→チャンネル「未来スケッチ
のアトリエ」

シーンスケッチ コンテスト



年代別に応募可能・SF部門あり・CG可

→チャンネル「スマートクール
シティへようこそ」

(デジタルデザイン企画) スマート クールシティ



データで示そう

→チャンネル「デジタル地図を
作ろう・使おう」



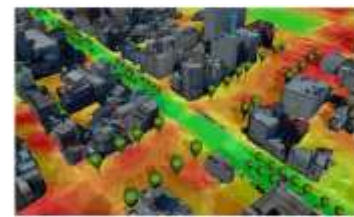
タブレットで 書き込み



小学生から利用可能
な「カキコマップ」
をスマートクールシ
ティWSで活用



Web(GIS)で共有



(参考) 市内一部高校の「総
合的な探究の時間」でも活用
(熊谷西高Webサイト)



(※) 本資料のイラストの作成には、画像生成AIアプリ「Adobe Firefly」を使用しています。

「slidoによる感想共有」

slidoによる感想共有

●slidoとは

- ・ライブアンケートの実施や、結果をその場で共有できる
- ・参加者からの質問や共感をライブで反映できる

●本日の使い方

- ・まずはコードを読み込む。
- ・このイベントやコミュニティラボへの期待、感想や意見を入力する。グッドを押す。（匿名です）
- ・このイベント中にグッドの多いものなどを皆さんにご紹介します。



講演①

熊谷市「コミュニティラボ」キックオフイベント

地域の個性を活かしたデジタル活用

2024年8月17日(土)

株式会社国際社会経済研究所

ソートリーダーシップ推進部プロフェッショナル 芥川 愛子

世界知で、未来を照らす

人類は古代より、夜空に瞬く星の連なりに星座を見出し、物語を紡いできました。

世界各地で生み出された星座は時に、そこに生きる人々が種を蒔き、豊かな実りを得るための道標の役割を果たし、地域や文明を超えて、現代へつながる人類の発展を導いてきました。

今日、世界は新たな文明への扉の前で、地球規模の課題の発見と解決を求められています。

わたしたちIISEは、NECグループのシンクタンクとして

世界の持続的な発展と、誰一人取り残されない人類の存続とを見据え、
未来の社会像を描き、共に歩む仲間を募り、道筋を示します。

IISEは、そのネットワークを通じて世界中から知を集積し、そこに集う専門家たちと共に
星の連なりを見つめ直すことで新たな星座の物語を紡ぎ、社会に語りかけます。

新たな星座とは、新たな社会像・新たな市場・新たな価値であり、
誰もが持っている未来の種を、課題解決につながる事業として芽吹かせ育むための道標となります。

IISEは、未来の種を植える人々の道標となります。



世界に誇れる「地域らしい」まちの進化

を目指すNECグループは、
スマートシティ事業を通じて10年以上、
日本と世界の都市の社会課題を解決するために
さまざまな技術※を実証・実装してきました。

※インフラ管理やセンシング、
都市OS基盤、データ利活用、
防災・環境ソリューション、ほか

この経験から気づいたこと

社会実装に必要なことは

パーパス
を
共有する

みんなで
つづける

技術を
利用する

2023年「パーパス都市経営」を提唱

国際社会経済研究所（IISE）

プロフェッショナル

芥川愛子

大手通信事業者等を経てNECに入社後、IoT、量子コンピュータ等のマーケットインテリジェンスに従事し戦略立案に貢献。

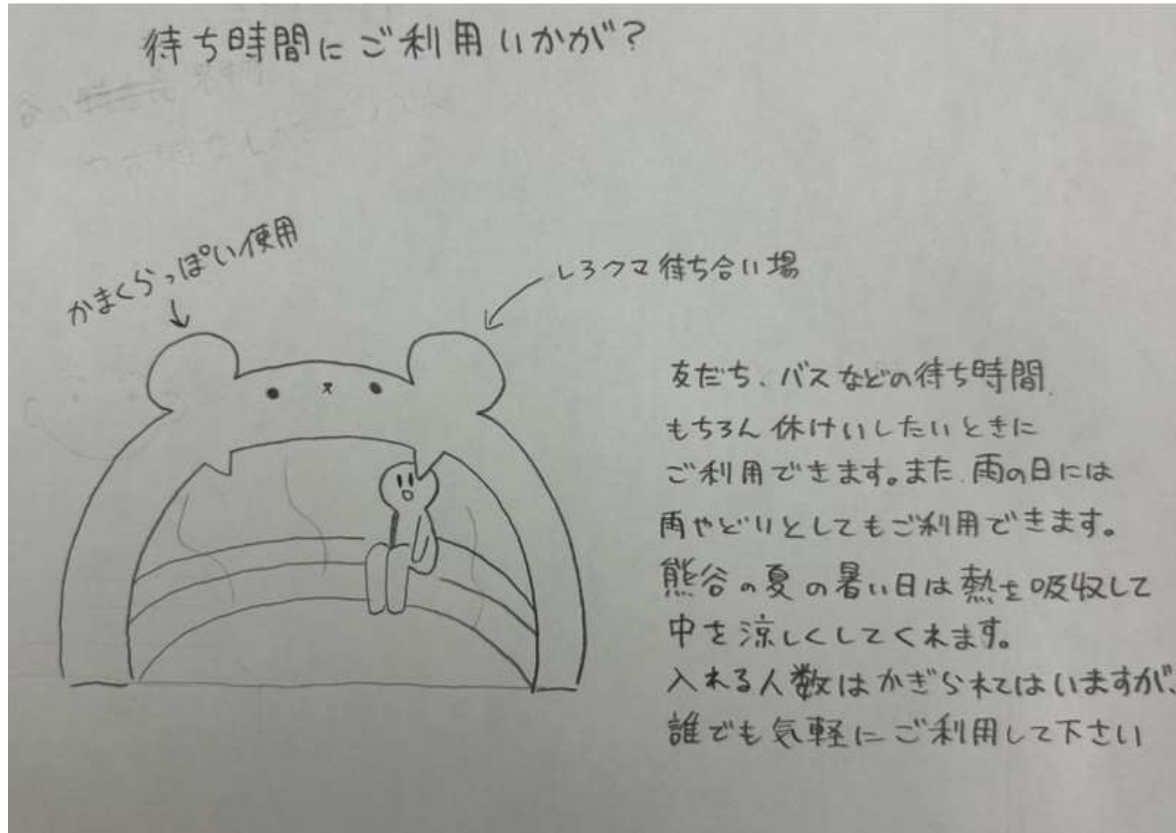
内閣府において、第6期科学技術・イノベーション基本計画の取りまとめに参画。

現在はNECグループの独立シンクタンクである株式会社国際社会経済研究所でスマートシティと行政デジタル化のThought Leadership活動を牽引。

昨年のシーンスケッチコンテスト 応募作品 No.263

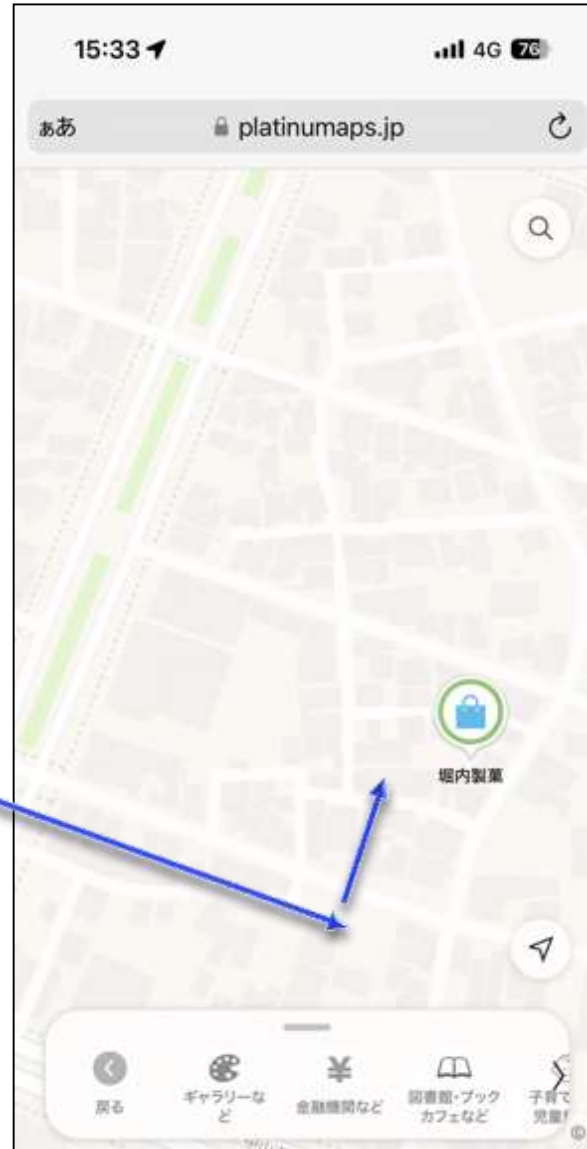


【出典】熊谷スマートシティシーンスケッチコンテスト2023報告書(PDF:14,846KB)

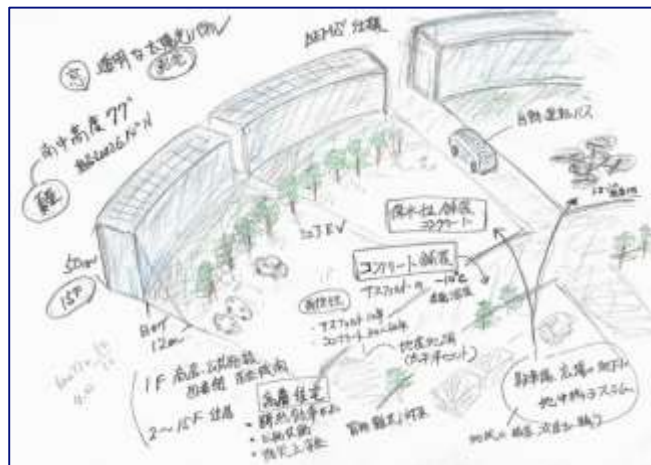


【出典】熊谷スマートシティシーンスケッチコンテスト2023報告書(PDF: 14,846KB)

すでにクマぶら・クマポに実装されています



- ◆ 昨年度のシーンスケッチコンテストでは、およそ300点の提案があった
 - みんなで取り組む、みんなに分け合う、みんなで快適に過ごしたい
 - みんなで技術を活用して、みんなで便利に、みんなで持続可能性を高めよう



【出典】2023年度(第1回)熊谷シーンスケッチコンテスト受賞作品を発表します! :熊谷市ホームページ (kumagaya.lg.jp)

「暑さ対策」を起点に、産業を作っていく例(想定)

暑さ対策

暑さ対策

技術

暑さ対策

技術

分け合う

暑さ対策

技術

分け合う

束ねる

暑さ対策

技術

分け合う

束ねる

広げる



ここ熊谷の土地柄に合わせてサービスを束ねて、参加の輪を広げながら、共感を集めていく。共感を集めていけば、資金も集まってくる。そして、事業化への道が拓けてくる。



【デザイン1】やさしい未来発見に向けた3つの好循環

熊谷市では持続性のある地域を目指し、スマートシティの政策を実施。
熊谷スマートシティは様々な人が関わりながら、以下3つのサイクルを回すこと
によって、地域づくりや、生活・ウェルビーイング、人材育成・データ活用の好循環を
つくっていく。

熊谷市の目指す 持続可能な地域をつくるエコシステム



(地域づくりの未来発見)

やさしい未来発見都市の 成長サイクル



(生活・ウェルビーイングの未来発見)

熊谷市の目指す データ活用サイクル



(人材育成・データ活用の未来発見)

NECグループのスマートシティビジョン

世界に誇れる「地域らしい」まちの進化

地域固有の“らしさ”と 新しい“らしさ”

人々が安心して生き活きと暮らし続けられるまちへ

地域の特性に合わせた
課題解決

住む人・集まる人の
QOL向上

地域経済の
好循環

NECグループはこれまでに培ってきた実績・知見・技術・つながりを活用して
地域の皆様と寄り添い「地域らしい」まちの進化をサポートします。

避けなければならないシナリオ 人口減少の悪循環に陥った20年後の未来のまち

人や店が離れていく

年々不便になっていくまち

孤独な自助

無理も自己責任のうち

担い手が減って

出来ることが減っていく

明るい未来のまち

まちの仕組みや技術が人口減少の影響を補い、社会インフラを適切に管理し維持運用
人々が互いに支え合い充実した生活を送れるまち
(良い状態にある、Well-Beingの高いまち)

社会インフラが維持され
活気に満ちた便利なまち

ステークホルダーが連携して
持続的に支えあう共助のまち

人が活躍し、人を惹きつける
人もまちも健康で、良い状態



3 基本理念と将来都市像

先人たちが守り、創り、育んできた本市の歴史や文化、自然は、大切な地域資源であり、私たちの生活に潤いと生きがい、誇りを与えてくれるかけがえのない宝物です。

次世代を担う子どもたちにこれらの宝物を継承していくことは、私たちの責務であるだけでなく、まちづくり・地域づくりの目標でもあります。

全国的に人口が減少し、地域活力の衰退が危惧される中、子どもたちが未来に希望を持ちながら笑顔で暮らせるまちは、全ての世代にとっても安心して心豊かに暮らせるまちだと考えます。

そこで、本市の将来都市像を

**「子どもたちの笑顔があふれるまち 熊谷
～輝く未来へトライ～」**

と定め、地域資源を生かした独自性と自立性の高い持続可能なまちづくりを進めるとともに、子どもたちが郷土愛を育みながら健やかに育つ都市を目指します。

第2次熊谷市総合振興計画(後期基本計画):熊谷市ホームページ (kumagaya.lg.jp)

パーパス都市経営とは

「幸せが続くまち」を実現するために、
まちの存在意義であるパーパスを明確化し、
経営にこだわった視点を持ちながら、持続的に回し続ける。

「パーパス経営」

企業のパーパス(存在意義)を
活動の指針に事業活動すること



「都市経営」

自治体が財政をやりくりしながら
都市を運営していくこと

「幸せが続くまち」を目指し、スマートシティを持続的に回し続けるために

世界に誇れる「地域らしい」まちの進化

地域の特性に
合わせた課題解決

住む人・集まる人の
QOL向上

地域経済の
好循環

「パーパス都市経営」

まちのパーパス(存在意義)として、「Well-Beingの高いまち」を設定

- | | | |
|---|------------|-----------------------------------|
| 1 | ステークホルダー連携 | まちのステークホルダーが連携して、まちのパーパスを共有する |
| 2 | 経営的マインド | 民間企業の「経営的マインド」をまちの運営に応用して、みんなで続ける |
| 3 | 「データ」を活用 | データと技術を活用して経営を持続的に回し続け、信頼をはぐくむ |

パーパス「地域らしい、Well-Beingの高いまち」



立場の違いを超えて価値観を共有し、時代を超えて志をつなぐ

パーパス都市経営の考え方(2/3)

民間企業の「経営的マインド」をまちの運営に応用して、みんなで続ける

パーパス「地域らしい、Well-Beingの高いまち」

経営的マインド

まちの資源をかき集める

地域らしさは、まちの競争力の源泉
まちの文化や伝統、産業、環境、価値観
人々の経験、想い、敬意、スキル、人脈

VUCA時代を乗り越える軸になる

経営戦略に沿った投資と回収

人づくりや仕組みづくりに投資し、
経済的リターンと社会的リターン、
環境的リターンの最適解を目指す

最適解を導き出すのは「人と仕組み」
リターンをさらなる成長投資へ

共創を通じて、新たな変化に対応

新しい仕組みや技術、チャレンジ
公民/広域共創、スタートアップ共創

多様性に富むケイパビリティを拡張し
新たな変化に対応する

「経営的マインド」を持ち、みんなが持続可能な仕組みで回し続ける

パーパス都市経営の考え方(3/3)

データと技術を活用して持続的経営をし、共感と信頼を育む

パーパス「地域らしい、Well-Beingの高いまち」

データを共通言語に

データに基づく判断で共通理解を促進
信頼を育むためにデータを利用する

行政が公開する
オープンデータ

企業や個人が
提供するデータ

都市OS基盤
セキュリティ技術

Livable Well-Being City指標※1

客観的な指標

主観的な指標
(アンケート結果等)

データに基づく判断の合理性、透明性、
説得性が、立場を超えた信頼を築く

テクノロジーで補う

これからの担い手不足を技術で補い
人にしかできない役割に集中して信頼を育む

リモートセンシング技術

オンライン窓口

遠隔技術、自動化技術

生成AIによる作業効率化

ロボット技術、AI技術

選択肢の複雑な計画作業
(組み合わせ最適化計算)

これから登場する
革新的技術

テクノロジーにもできることはテクノロジーに任せる。
地域で人を育て、地域と人と企業をつなぎ、
未来のために話し合い、期待に応えて信頼を育む

データと技術を活用して経営を持続的に回し続け、共感と信頼を育む

平成17年(2005年)
(新)今治市発足
12市町村合併

平成17年3月

「今治市海事都市構想推進事業計画」

『新時代に向けた海事都市“今治”の創造』

パーパス
を
共有する

地域固有の「伝統的な産業」を、
地域の連携・発展軸として捉え、
「新しい取り組み」を目指した

計画策定にあたっては、海事産業にかかわる
地元の産学行の当事者が、レビューに参加。

日本一の海事都市 今治を擁する愛媛県の実業が大きく成長

- 愛媛県の実業従事者数 1.33倍 (2006年→2016年)
- 愛媛県の実業クラスター生産額 1.41倍 (2005年→2015年)
- 愛媛県の実業クラスター粗付加価値額 1.56倍 (2005年→2015年)

出典：「愛媛の実業クラスターの現状と今後の方向性①②」(いよぎん地域経済研究センター調査月報 2021年5月、6月)
主任研究員 野村撰雄 研究員 後藤洋政(作成協力)
https://www.jpmac.or.jp/img/jmc_report/pdf/2021/jmcreport_split05.pdf

みんなで
つづける

次世代人材育成
交流の推進

次世代の技術者育成

- 今治地域造船技術センター
- 国立弓削商船高等専門学校

次世代育成(啓発)

- 小中学校教員を対象とする
造船所見学会、海事啓発
セミナー
- 小中学生の造船所見学
- 出張授業



今治で開催される西日本最大の国際海事展。
2009年より隔年開催。

2023年参加者数
業界関係者 11,445人
一般公開日 8,189人
(子ども・家族連れが大勢参加)

特別後援：

今治市海事都市交流委員会(任意団体)
今治市産業振興課 海事都市推進室

まちのWell-beingのためのデジタル活用 (健康、防災、賑わい)

当社開発の都市OS上で140のシステム、16,000センサー、200カメラのデータを連携、自治体と共同で新たなサービス・ユースケースを共同開発(ポルトガル リスボン市)



環境モニタリング



市民向け携帯アプリ
“Lisboa 24”



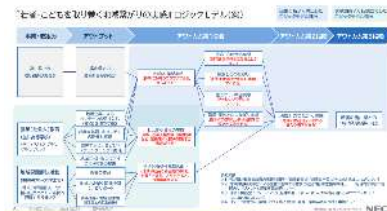
データラボ
“Urban Co-Creation Data Lab”



人々のWell-being実現のために、ひとを中心として 持続可能な「世界に誇れる地域らしいまち」を実現する

都市経営コンサルから住民サービス、データ利活用による改善施策までワンストップで提供

都市経営コンサル



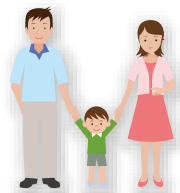
県基盤 ビジョン・計画策定

庁内データ棚卸

Well-Being 因果関係分析

EBPM※活用

住民サービス 標準モデル



FonesVisuas 検査・介入

健康診断結果予測シミュレーション

健康ポイント活用

デジタル健康手帳

広域避難行動支援

防災ダッシュボード

防災ポータル

避難所受付サービス

データ利活用



スマートシティ プラットフォーム事業

住民ポータル FORESTIS

FIWARE

PxR/IdP

集客施設DX PF

NECのヘルスケアサービス概要

当社の
強み

先端技術を活用することで、健康寿命の延伸および社会保障費の適正化に貢献

課題解決
の方向性

ポピュレーションアプローチ

※集団全体に働きかける健康増進の取り組み

健診結果予測シミュレーション



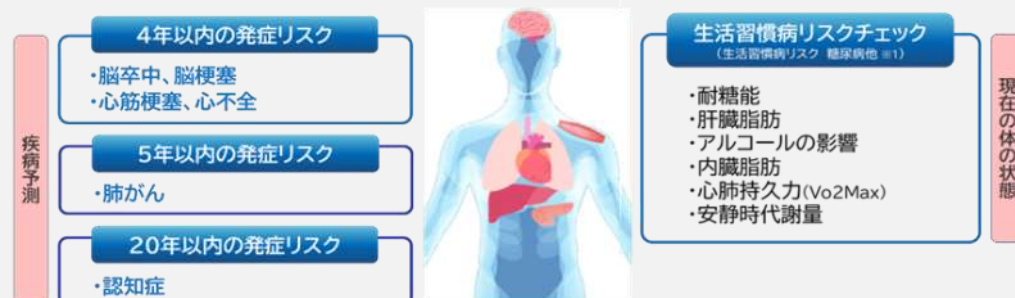
- ・健康診断の結果から、将来の結果値を予測
- ・改善アドバイス提供で健康改善・行動変容の促進を支援
- ・AI活用で保険指導効率化実現

特定健診・特定保健指導受診率向上により保険事業効率化支援

ハイリスクアプローチ

※一般的には発症済み患者への重症化予防アプローチを指すことが多いが、本資料内では未病むけ発症リスク予防アプローチも含む

フォーネスビジュアス



- ・少量の採血から将来の疾患発症リスクを予測
- ・発症リスクに合わせた介入を実施
- ・発症予防・重症化予防に向けた健康改善の取り組みを支援

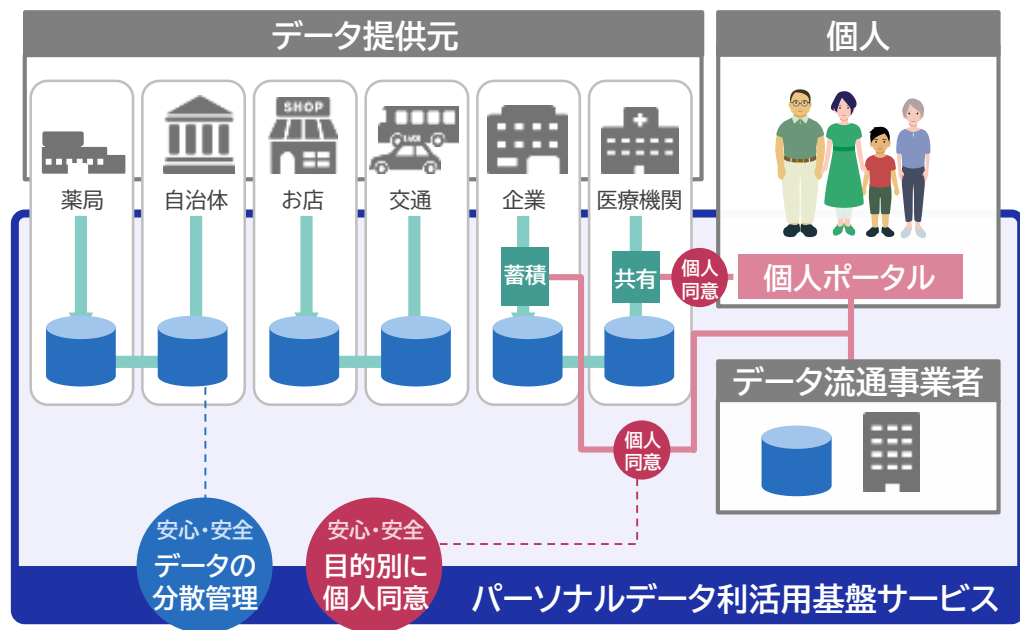
疾病予防・重症化予防により医療費適正化に貢献

NEC
サービス

北海道 更別村様 パーソナルデータ利活用基盤サービス

「全員IoTヘルスケアで いつでもどこでも診療所」の実現をめざして
ヘルスケア領域でパーソナルデータの流通・利活用を実現

村民の同意のもと、分野間を超えて
パーソナルデータを安心・安全に流通



NECパーソナルデータ利活用基盤サービスイメージ図です

村民の生きがいや個人に合った
パーソナライズドサービスを提供



村民の健康診断結果や趣味嗜好データから、より村民
の健康状態に寄り添ったヘルスケアサービスを実施

写真はイメージです

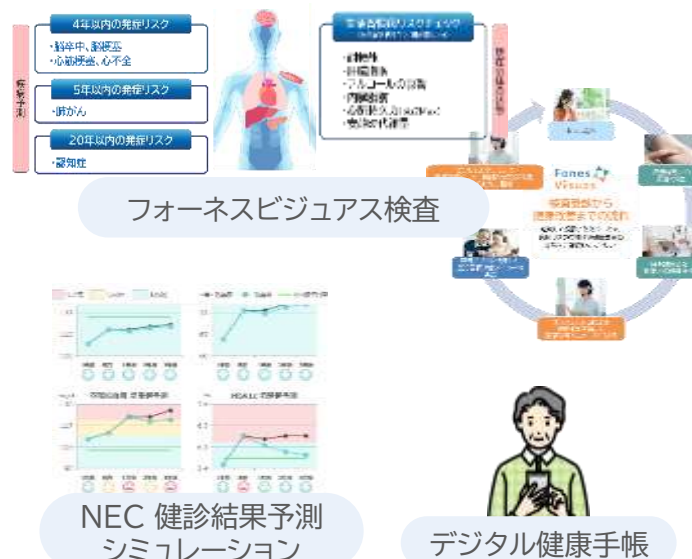
荒尾市様の課題解決に向けた独自のサービス展開と、市の財政支出や補助金に依存しないビジネスモデルの確立を目指して、令和4年度から荒尾市様とともに活動を継続しています。

令和6年度～

荒尾市 財政適正化と事業継続

疾病リスク予測検査を含めた
保健事業の高度化サービスを提供

PFS※等の事業モデルの実現と
更なるサービスの強化を実行



※PFS(成果連動型民間委託契約方式)
[成果連動型民間委託契約方式\(PFS:Pay For Success\)ポータルサイト - 内閣府 \(cao.go.jp\)](http://cao.go.jp)

NECの防災ビジョン

目標・ビジョン

逃げ遅れゼロ

住民、来訪者が適切な避難行動をとることで
災害時の逃げ遅れをなくすことを実現



優先すべき対象

要支援者

避難支援を行うことができる体制を築き
地域全体として要支援者を守ることを促進

災害時の逃げ遅れゼロ実現をビジョンとして掲げ、逃げ遅れが最も多い、
要支援者を救うことを最優先にDXでお役に立ちたいと考えています。

災害対策基本法等の一部改正 個別避難計画の作成を市町村の努力義務化

上手く進められていない実情

(※全国の市町村福祉課や防災コンサルへの聞き取り結果)

課題
1

個別避難計画の作成・共有・更新は
自治体の業務を圧迫



- ・ 依頼書の印刷・発送
- ・ 紙で入手したデータの入力
- ・ データ入力誤りの恐れ

課題
2

紙で作成した個別避難計画の
実効性に問題がある



- ・ 個別避難計画の更新



自治体は災害時の対応に
手が回らない



紙だと共有が難しく
集計作業も大変

課題
3

避難所の状況、要支援者の状況が
タイムリーに把握できない



避難者情報管理や備蓄品情
報の紙管理は即時性もなく
時間がかかる



必要な物資が届かない

紙運用(アナログ)による個別避難計画作成、避難所運営は実効性が低く
自治体と地域コミュニティに膨大な作業が発生

要支援者と支援者をデジタルでつなぎ「逃げ遅れゼロ」を実現

防災意識の
向上

防災に備えて
共助体制構築

助け合いによる
適切な避難

迅速な
災害状況共有

スムーズな受付
と情報共有

避難後も
安心な仕組み

データ連携基盤により、領域横断データを迅速に利活用

平時

切迫時

応急時



⑤住民ポータルサービス

- ・防災意識向上
- ・避難誘導補助



①個別避難計画作成サービス

- ・要支援名簿管理
- ・個別避難計画作成



②共助避難支援サービス

- ・避難支援ガイド
- ・要支援者の状況登録



③ダッシュボードサービス

- ・状況の見える化
- ・避難場所の確認



④避難所受付サービス

- ・避難所の受付
- ・避難所別の状況共有
- ・在庫品の管理



- ・避難状況の共有
- ・不足物資の供給

個別避難計画をデジタルで作成・管理し、安全かつ円滑な避難を支援する「NEC避難行動支援サービス」を本年4月から運用開始

導入の背景

2004年：
新潟県中越地震

2004年：
新潟・福島豪雨

2007年：
新潟県中越沖地震

2021年：
個別避難計画作成 努力義務化
(災害対策基本法改正)

個別避難計画作成支援サービス

LGWAN-ASP上で、セキュリティを担保し、庁舎外からも入力・更新が可能
市職員の負荷軽減を実現。平時だけではなく災害発生時も含めた地域コミュニティとのさらなる連携強化。



避難行動要支援者名簿
作成優先度設定



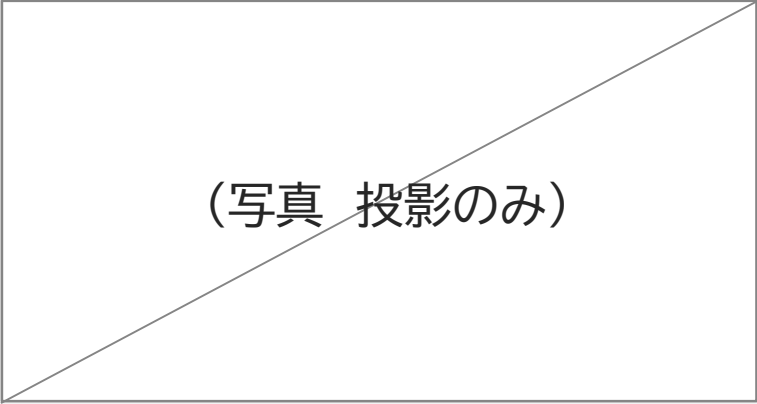
個別避難計画
オンライン作成



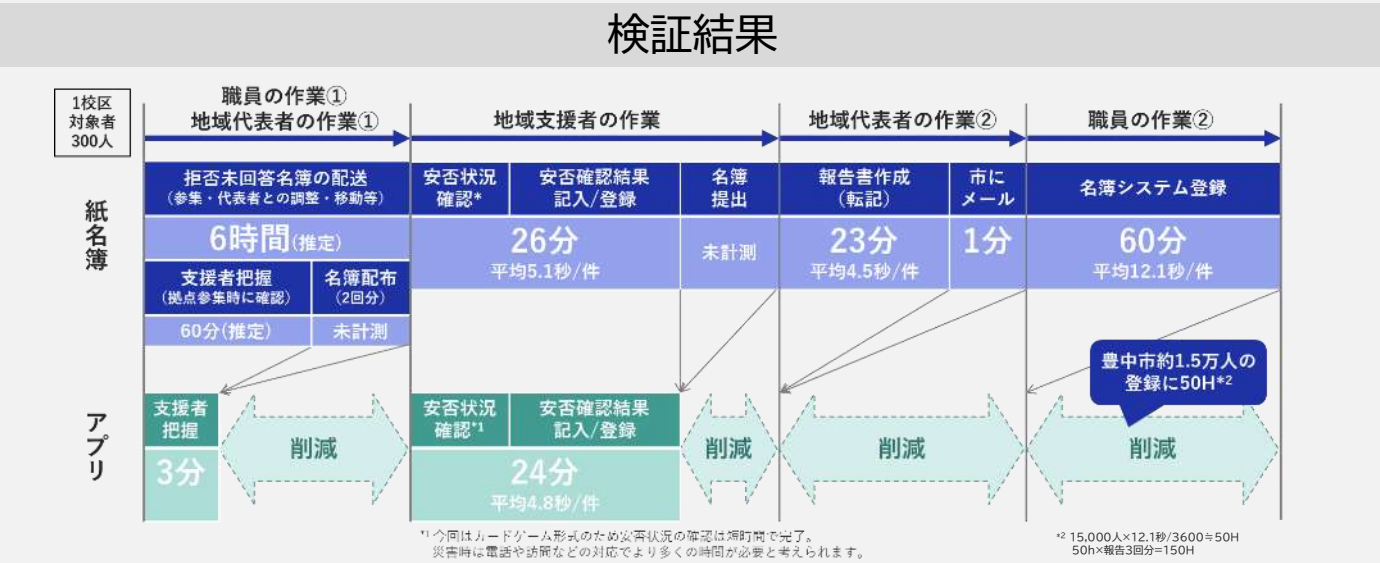
避難経路図作成等

2024年1月20日に豊中市の全市一斉防災訓練の中で「デジタル安否確認」の実証実験を実施。
紙運用に比べ情報共有が迅速、簡便にできる点が評価。市長からもポジティブなコメント。

【デジタルツール・紙名簿による比較検証】



【災害対策室での安否確認共有機能の評価】



紙と比較し支援者の負担増なしに
市全域で約400時間の職員作業の削減効果

多数の参加者が災害時の本サービスの利用を希望
課題解決に繋がるとの回答(アンケートより)

要支援者名簿の印刷・配送作業(約30万円)災害時対応(約80万円*)で
年間約110万円の削減効果

【熊本県事例】 ダッシュボード

・2024年4月から、市町村の防災及び交通・観光用途での活用を前提とした広域ダッシュボードを県主導で提供開始
データ連携基盤に登録(接続)されたデータを地図上に可視化。公共施設情報やバスの運行情報などの行政・民間事業者が保有するオープンデータをはじめとするデータを、パソコンやスマートフォンから閲覧

熊本県 広域ダッシュボード導入 【防災】【交通・観光】

目的に合わせて表示の変更が可能

地図上でのデータの表示方法はマーカー、ポリゴン、ラインに対応しています。利用者が目的に応じて、各種データの表示・切り替えが可能です。



防災 避難時の参考に活用

平時(自宅)	避難時	避難所への移動時	避難所到着後
避難所を確認し、非常時の避難行動計画作成に活用	GPSと連動し、現在地から最も近い避難所を確認	個別地図情報からシームレスにGoogle Mapと連携し、避難所までの詳細な経路や時間を確認	河川水位などの防災関連情報をグラフ等で確認
			
地図情報閲覧(PC)	地図情報閲覧(スマホ)	Google MAP連携(スマホ)	情報閲覧(スマホ)

観光 旅行時の観光ルート確認・混雑把握時に活用

旅行前	事前に混雑状況を把握	近隣の観光施設を検索	バスの運行情報を閲覧
観光施設を確認し、観光ルートを計画	ライブカメラの映像で、目的の観光地が混雑していることを確認	GPSと連動し、最寄りの観光施設と、利用できるバス停を検索	目的の観光地までのバス情報を閲覧し、公共交通機関を利用したスムーズな移動が実現



出所:熊本県ダッシュボードサイト

3D都市モデルによる都市政策評価システム：高松市事例

国土交通省 PROJECT PLATEAU の3D都市モデル
住民や多様な関係者でのEBPM(Evidence-based policy making)に活用

3D都市モデルによる都市政策評価



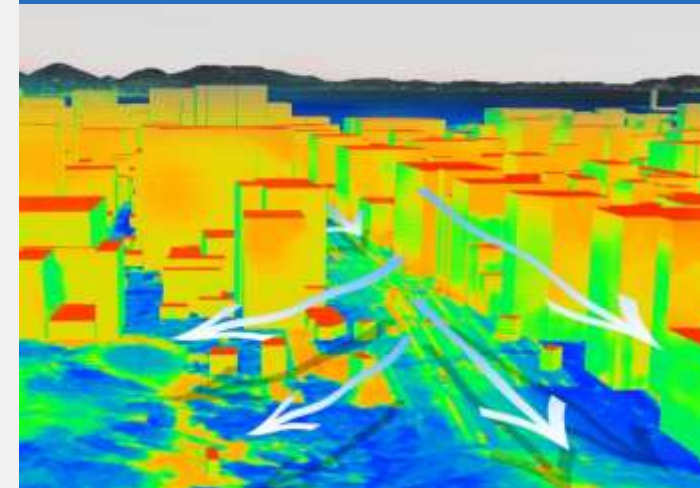
将来の都市構造をWebGISで3D地図上に重畳、
街全体を俯瞰可視化

リアルハザードマップ 大規模降雨による洪水リスク評価



避難路の確保や住民の避難誘導

ヒートアイランドマップ 暑熱による住環境への影響評価



建物・道路等の配置、熱吸収、風速、
植栽効果等、暑熱による住環境の改善



3D都市モデル、IoTセンサ、土地・建物や人の移動・交通データに併せて、
洪水や熱環境等のシミュレーションデータをFIWAREに集約

人とまちをつなぐ スマート街路灯(六本木商店街事例)

防災

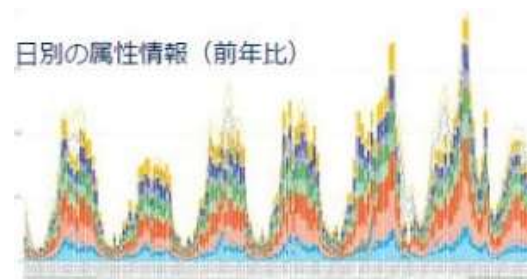


来街者に適したイベント、情報発信によるにぎわい創出
災害時は帰宅困難者に適した情報を提供し、安全安心なまちづくりを支援

平時：街の見守りと賑わい創出



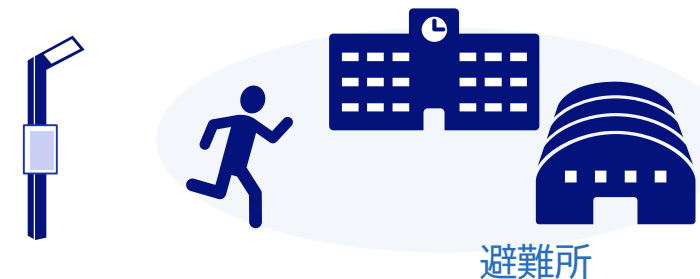
クーポンなど
情報発信で
賑わい創出



混雑・人流など
まちの見える化で
混雑回避・施策効果検証

災害時：情報発信と混乱防止

避難所が開設されました 帰宅が困難な方は
表示に従い避難所へお向かいください



住民や、土地勘のない来街者へ
スピーカーやディスプレイを
活用した避難誘導を実施

子どもたちの笑顔があふれるまち 熊谷 でありつづけるために

パーパス
を
共有する

立場の違いを超えて
価値観を共有し
時代を超えて志をつなぐ

みんなで
つづける

「経営的マインド」を持ち、
みんなが持続可能な仕組みで
回し続ける

技術を
利用する

共感と信頼を育むために
技術を利用する



「未来をつくるパーパス都市経営」

「幸せが続くまち」を目指す「パーパス都市経営」
豊富な事例とともに、データや技術の使い方を解説

著者 株式会社 国際社会経済研究所 研究主幹 西岡満代
発行：日経BP 発売：日経BPマーケティング



I I S E

講演②

2024/8/17

熊谷市キックオフイベント

「共創」でつくるコミュニティ・ラボ★

「ジブンゴト」から始まる新たな未来

立教大学

西山志保

(**SNISHIYAMA@RIKKYO.AC.JP**)

自己紹介：地域再生の社会学

- ・ 立教大学 社会学部 教授
- ・ 都市社会学、地域社会学
- ・ 都市再生、市民主体のまちづくりの社会学
- ・ 官民連携による都市ガバナンスの国際比較研究
- ・ フィールドワーク

南池袋公園の再生

横浜寿町の社会的企業

欧米の市民事業体と地域再生

私らしく暮らせる場所： コミュニティの役割拡大

- ・ 自分らしく暮らせるための場所としての「コミュニティ」の重要性
- ・ 地縁型、知縁型、ネットワーク型、ソーシャルキャピタルとの関連
- ・ コミュニティ形成のステップ：行政政策への住民参加→コミュニティ力の向上（住民自治）→社会課題への対応（住民自主管理）
- ・ コミュニティをベースとした考えとは、「生活者の視点」から社会課題を発見し、ニーズを政策や、企業商品に結び付けるということ

リビングラボとは何か？

- リビングラボとは、（様々な定義がある）コミュニティの主役である住民・市民が主体となり、専門家や技術者、行政、企業などのあらゆるステークホルダーが集い、自ら課題を設定し、暮らしを豊かにするためのサービスやものを生み出し、よりよいものにしていく活動。
- ヨーロッパを中心に広がるオープン・イノベーションを生み出す「共創」の一連の手法、理念やビジョンづくりというよりは、具体的な実践の場
- 形態：企業主導型、大学主導型、行政主導型、日本でも2010年代から広がりを見せる
- コミュニティデザインを促す産官学民の連携がベースとなる→それぞれの強みと弱みを把握し、補い合う

リビングラボの原則

(LIVING LABO LABPRATORY JAPAN(LLIJ)の定義)

- LIVING：実社会や生活の場での課題解決や未来創造のための活動である
- LABO：できるだけ早い段階から試作品をつくり具体化していく、それを生活の場で試しながらモノや製品、サービスのみならず、地域活動や社会システムなど範囲にわたる
- CO-CAREATIO：共創、マルチステークホルダーアプローチ、行政、企業、研究機関、生活者などの中心には、必ず生活者がいる
- ENGAGEMENT：長期的に生活者が関与する活動であること、生活者は、プロジェクトに関与するパートナーとして位置づけられる

日本には、現在**100**ほどのリビングラボと呼ばれる活動がある

		協力体制
行政主導型	島根県雲南市役所 長野県塩尻市役所	ヤマハ発動機、竹中工務店 ソフトバンク、リクルート
企業主導型	神奈川県川崎市、富士通総研： 防災科学リビングラボ 大阪：三菱総研、コモングラウ ンドリビングラボ 秋田県酒田市：NTTデータ経 営研究所、酒田リビングラボ	東北3自治体、東北大学、NPO、 国連 NEC、大阪ガス、大和ハウスな ど 酒田市、住民参加、デジタル通 じた地域課題解決
大学主導型	神奈川県鎌倉市：鎌倉リビング ラボ 世田谷区尾山台：おやまちリビ ングラボ	社団法人東京大学未来社会共創 センター、NPO 東京都市大学、ウエルビーイン グリビングラボユニット

住民自治力を育むコミュニティ： 鎌倉リビングラボ

- ・ 鎌倉市

面積36.67km²

令和2年人口17,282人

- ・ 平成23年長寿社会のまちづくりの調査→平成29年「鎌倉リビングラボ」を開始

- ・ 場所：鎌倉市今泉台

- ・ 平成29年1月に活動スタート、設立の目的：長寿社会における課題や対応策のモデル構築として、東京大学の高齢社会総合研究機構の教授秋山氏が提案

- ・ 東京大学高齢社会総合研究機構、NPO法人タウンサポートかも安倉今泉台（町内会ベース）、SMBCフィナンシャルグループ、鎌倉市役所の協働のもとに体制確立

- ・ 長寿社会における地域住民主体のライフスタイル開発

鎌倉Ⅱ（今泉台）の地域課題

：高齢化に直面したニュータウン

- 今泉台2023年9月
- 面積39.66km²
- 大船駅から公共交通はバスのみ25分なので、不便な場所、高齢化率高い
- 人口4568人、世帯2019世帯
- 高齢化率 1960年代に開発された地域の中には45%を超えている地域もある。
- 大船からバスで25分の不便な場所で、高齢化率の高さ、空き屋率（114戸から84戸へ）
- 空き地（47か所）、買い物難民、
- 住民のニーズは、高齢化しても、自分が暮らした地域で最期まで過ごしたい
→高齢者が暮らしやすいまち、介護、医療、ライフサポートの課題

その特徴は、活動の主役が行政ではなく、住民である点、自分たちで何ができるか考え、「できることを地域でやっていこう！」という意識の広がり

テーマは、長寿社会のまちづくり

年代	地域の出来事	特徴
1965~1974 年代	大規模な宅地開発ニュータウンとして：今泉台の 開発	同年齢・大企業ホワイトカラー、 専業主婦の地域活動盛ん
1990年代	男女参画の推進、今泉台では男性でも地域でできる ことを模索、助っ人会（男性でも地域でできる ことを模索）などのサークル活動盛ん	
2011年	鎌倉市（政策創造課→地域のつながり課が2010年 代末に設立される）中心に、長寿社会のまちづく り研究会でテーマ設定して様々な調査研究を実施 し、住民との連帯可能性を模索→今泉台を対象に	横浜国大との連携 東京大学高齢社会総合研究機構 との連携
2017年	町内会のメンバーが、144の課題に向き合うために、 「町内会活動をサポートするNPO」として、NPO 法人タウンサポート鎌倉今泉台を、設立	「意識の高い人たち」の集まり
同年	鎌倉リビングラボ設立、企業からプロジェクトと して仕事を受託し、NPOの収入にする	社団未来社会共創センターから 事業受託

鎌倉LLのステークホルダーとその役割



鎌倉市資料より

<https://www.city.kamakura.kanagawa.jp/seisaku-souzou/llgaiyou.html>

具体的プロジェクト：

「ジブンゴト」意識を生み出すしくみづくり

①ITOKIとの共同開発：テレワーク用の机を自分たちで開発する

- Phase1 単なる商品開発やモニター制度とは異なり、住民の需要やニーズの掘り起こしをして、プロトタイプをつくり、生活者としての立場から使用し、評価。テレワーク家具の販売。参加者探し、ワークショップを開催して、企業が住民の意見きく、消費開発する、
- Phase2 商品を使える場所をコミュニティで探す

②地元商店街における「サカナヤマルカマ」魚屋の開店

- 鎌倉市の住民と九州の阿久根市の共同開発
- 開業資金をクラウドファンディングで調達し、買い物難民

×水産業の人手不足という問題に取り組む→若い人も一緒に、空き店舗の改装、惣菜づくり、販売を行う



住民経営のサカナヤマルカマ



START

①課題の洗い出しとテーマ策定

「若い人が住みたいまちにしたい！」
「テレワークしやすい環境をつくろう！」



⑧Home Use Test

自宅で試作品を実際に使ってみたら思わぬ
使い途を発見！



②仲間づくり

- ・イベントやポスター、地域ネットワークによる案内
- ・会員企業に声掛け



③座談会開催

年齢、性別、ライフスタイルが異なる
多様な住民が参加
キーパーソンとなる住民参加者発掘



④ニーズの深堀

デザイン思考の様々な手法を駆使理想と
現実の本音を追求



⑤分析・仮説構築

キーワードや利用者像から
コンセプトを設計
アイデアを具体的な形に落とし込みます



共創サイクル

⑦試作品検証

使い勝手を試したり、家に置くとしたらどん
な使い方をしたいか考えたり...



⑥CG/モックアップ検証

ダンボールで作った原寸大の試作品にさらに
使いやすくなるようみんなで手を加えます



GOAL

日本初！

リビングラボでゼロから生まれた商品の発売



TO BE CONTINUED

- ・「鎌倉×ワーク」にテーマ拡大
- ・他地域に展開
- ・共創手法のブラッシュアップ
- ・イベントやメディアで紹介

鎌倉LLのHPより引用

[HTTPS://WWW.KAMAKURALL.CC-AA.OR.JP/](https://www.kamakurall.cc-aa.or.jp/)

鎌倉LLの成功要因

- 担い手の意識の高さ、活動基盤の確立 = 1960~70年代に開発された住宅地、同じくらいの世代、大企業勤めのホワイトカラー + 専業主婦の典型的なパターン、地域活動に熱心な専業主婦 → 様々なサークルを立ち上げ、ネットワーク化を図る
- 大学などの研究機関の協力（横浜国大が介護や地域包括ケアシステムの構築、東京大学がリビングラボのサポートなど）
- 町内会やボランティア活動ではなく、資金を柔軟にまわして、持続的な取り組みモデルを確立
- 課題が見えてきたときに、時間をかけて考え話し合う前に「やりながら = 行動を起こしながら修正、変えていく」、P(plan計画)D(do実行)C(check評価)A(action対策改善)サイクルという手法を用いる

鎌倉LLの事例をふまえて

- 住民が生活者としてワークショップなどに参加するときには、「仕事」として報酬（¥1000/h）を支払っている→仕事としてやってもらうことで、責任感が生まれ、ニーズの把握が容易になる。
- LLのプロジェクトを成功させるためには、**キーパーソン**（自ら進んで実践する専門家や経験豊富な企業人、住民を引っ張ってくれる住民リーダー）+**ネットワーカー**（必要な時に、適切な人につないでくれる住民人脈家）+**市民的専門家**（第3者の立場から俯瞰してアイデア・アドバイスを提供する専門家）の存在が不可欠
- 結局は、地域の課題を行政や他人に任せるという発想ではなく、**「ジブンゴト」化（自分たちでできることは自分たちでやっていく意識）**していくプロセスをどのようにつくるか、が重要な点、そのためのきっかけをLLが提供している
- 今泉台の成功事例を踏まえて、玉縄台自治会（鎌倉市）をベースとしたLLの開始＝高齢者にデジタルデバイスの活用を教える活動など

リビングラボ運営をめぐる（考える）障壁

- スタート：社会課題の設定が難しいため、専門家と共に仮説を立てるなどの対策必要
- リビングラボの主旨・ビジョンが理解されない：最初に活動の主旨や目的を整理して、わかりやすく伝えることが重要
- 問題意識の共有が難しい、地域外（第3者）からの協力により、社会課題の共有、などを行う
- 新しいチャレンジするための予算がない：予算化のスキルをつけるなど、行政からの補助金依存にならない事業化の研修などをサポートする必要がある
- 行政内の部署間や庁内の調整、地域との合意形成が図れない

社会課題の解決に向けて

- リビングラボという手法は、様々なステークホルダーが、自らの領域を超えて、長所短所を補い、協力しあう可能性をもたらす
- コミュニティ（生活者）をベースにした新しい価値創造＝企業も戦略としてCSV(creating shared value)をベースにした考えに転換、生活者のニーズに注目
- リビングラボは、すべての住民が「はたらき＝社会への関わり」を通して、自ら社会課題へ目を向けるきっかけとなる、楽しい！ワクワクする、「ジブンゴト」化
- PDCAサイクルによって自らのニーズを商品開発（社会課題を解決につながるような）に結び付ける

パネルディスカッション

「熊谷市のコミュニティラボの
可能性、未来への広がり」



閉会